

東北心理学会会員の皆様へ

岩手大学・山口浩（第72回東北心理学会大会準備委員長）

<東北心理学会の魅力と課題についてのアンケートへのご協力のお願い>

東北心理学会の会員の皆様におかれましてはご健勝のことと思います。

さて過日、関西心理学会・会長の清水寛之先生（神戸学院大学）の発案により、今年度9月下旬に行われる日本心理学会第82回大会（大会長・東北大学・行場次朗先生）に向けて、公募シンポジウム「地域心理学会の魅力と課題」が企画されたところです。実際に採用になるのかはまだ分かりませんが、本シンポジウムが開催される場合、東北心理学会からも話題提供者を出すようにとの要請が来たそうです。

現・東北心理学会理事長の細川徹先生から、今年度第72回大会を開催する準備委員長（山口、東北心理学会の一理事でもあります）が当該シンポジウムの話題提供者になるようにとの指示がありました。

まずはご参考まで、「地域心理学会の魅力と課題」の「企画趣旨」（清水先生作成）を以下に掲載します。

地方創生が広く認識され始めた昨今、心理学においても地域社会への貢献の可能性をこれまで以上に探る必要があると考えられる。日本には、さまざまな心理学の関連学会があり、それら学会間の連携を強化・促進するために日本心理学諸学会連合が組織されている。しかし、そうした専門分野に関連した全国規模の心理学会とは別に、北海道心理学会、東北心理学会、北陸心理学会、東海心理学会、関西心理学会、中国四国心理学会、九州心理学会、といった地域心理学会がそれぞれに重要な役割を果たしている。『心理学評論』では2005年と2006年にこれに関する特集号が編まれている。

本シンポジウムでは、地域心理学会がもつ魅力を再確認するとともに、それぞれが抱える問題や課題について情報交換を行うことで、心理学研究の促進、心理学者の交流、心理学の研究者・教育者・実践家の養成、心理学教育の充実など、広く日本の心理学の発展可能性について議論する。

（清水寛之、関西心理学会・会長）

さて私、山口は、東北心理学会からの話題提供者として任を果たさなければならないわけですが、何をどう話せばよいのか思案しているところです。そこで、東北心理学会第72回大会・第2号通信を学会員の皆様にお送りすることを機会ととらえ、広く学会員の皆様に、「東北心理学会の魅力と課題」についてご意見をお寄せいただき、それを元に話題提供に臨みたいと考えた次第です。

公募シンポジウムの企画趣旨に則れば、

大きく、

・東北心理学会の魅力と課題について

また観点を細かくすれば、

・心理学の（若手）研究者の養成の観点

・教育者、実践家の養成や交流の観点

・研究者と教育者・実践家が相互に刺激し合う観点

（裏面へ）

- ・地域における心理学教育の充実の観点
- ・地域における、あるいは地域発の心理学の発展の観点
- ・その他

また、

- ・会の組織や運営に関わること（予算、事務局運営など）
- ・その他

などについて、ご意見をお寄せいただければありがたい所です。

今までに理事長や理事を担われた先生方、事務局を担当された先生方、大会準備委員長を経験された先生方、長く学会員を続けてこられたベテランの学会員の皆様、中堅どころの皆様、また若手研究者の方々、若手会員の方々、等々、多くの学会員の方々からご意見を伺えれば幸いです。

<今後のアンケートご回答の手順概略>

(1) インターネットを利用したアンケート作成システムである、「REAS（リアルタイム評価支援システム）」(旧・独立行政法人メディア教育開発センターの開発、現・放送大学・オンライン教育センターの管理)を使用する予定。

(2) アンケートに協力いただける学会員は、山口の大学アドレス「hyama@iwate-u.ac.jp」へ、件名は「東北心理学会アンケート協力」と書いていただき、本文は、①お名前、②メールアドレス、だけ書いてお送りください。挨拶文等はなしでお願い致します。

(3) 上記の学会員の方へ、REAS へのアクセス情報をお送り致します。

(4) REAS にアクセスいただくと、アンケート内容が表示されます。そこにいろいろお答え（書き込み）いただくことになります。

(5) なお、アクセス受付開始日は返信メールにてお知らせ致します。

(6) 今回のアンケート結果は、日本心理学会公募シンポジウムで使用させていただき、他、東北心理学会 72 回の理事会での簡単な報告、まだ未定ですが 72 回大会でポスターないし口頭発表として公表させていただくことを考えております。

どうぞ、宜しくご協力のほど、お願い申し上げます。

